

## アジア債券市場は拡大するも流動性は低調、ADB 報告

[シンガポール 2006年11月14日] アジア開発銀行(ADB)が発表した報告によると、東アジア新興諸国における債券市場は、1997年-98年のアジア金融危機以降、国債の発行増加に伴い拡大した。しかし、債券残高の増加に見合ったほど市場の流動性は高まっていない。

ADBのアジア債券モニター(ABM)11月版によると、東アジアの新興諸国における現地通貨債券市場で流動性を高めるには、法・規制の整備、市場制度の改善、デリバティブ市場の成長、投資家の多様化、より強固な地域協力が必要である。

「更なる地域協力によって、小規模で細分化された現地通貨債券市場は発達し、流動性が高まり、地域の資本市場が進歩するだろう」と、ADB 総裁特別顧問兼地域経済統合室長の河合正弘は述べた。

ABMは、ASEAN諸国に中国、香港、韓国を加えた東アジア新興諸国における現地通貨建て債券市場をモニターしている。

11月版によると、地域の債券市場が規模において拡大し、現地通貨建て債券残高は2005年末の2兆ドルから2006年6月末に2.4兆ドルへと拡大しただけでなく、更に重要な特徴として、2006年GDPの割合においても拡大した。

同期間において、中国における現地通貨建て債券残高はドル換算で21%増、タイは19%増、ベトナムは18%増、韓国は13%増、シンガポールは9%増、インドネシアは10%増、マレーシアと香港はそれぞれ5%を超える増加を示したが、フィリピンは5%減少した。

ABMは、この地域の債券市場の規模と成長は、世界の同程度の経済規模の地域と比べても良好だが、流動性においては先進国より遅れている、と述べている。

報告書は、統計モデルを用いて市場参加者の意見を調査し、債券市場の流動性を高めるための要因を探求した。その結果、売買割合、スプレッド、債券利回りの変動性等の指標によって示される流動性が、東アジア新興諸国の債券市場では依然低調であることがわかった。

市場規模が大きく、強力な法的、規制的枠組みがあり、ヘッジ商品があれば流動性が高まる一方、為替の変動率が高いと流動性は低下するという結果も出た。

ASEAN プラス3が主導し、ADBが支援し、日本政府の拠出金によって運営されているアジア債券オンライン(AsianBondOnline)が45人の市場参加者に調査したところ、彼らは地域の投資家の基盤が狭いことに懸念を示した。社債市場で特に流動性が低く、購入して保持するだけの投資家が社債発行市場の大半を占め、社債はすぐにポートフォリオに吸収されて留まったままとなり、第二の流通市場での売買に結びついていない、と回答者の75%が感じている。

強力なデリバティブとレポ市場を形成することも、国債と社債の流動性向上に必要と指摘された。

民間企業と公的企業が現地通貨建て債券を発行するのを奨励し、銀行融資依存を脱却させるには、政府は差別的な税を廃止し、規制制度の改革をする必要があると、調査報告は述べている。

「東アジア新興諸国の社債市場は、アジア債券イニシアチブ(ABMI)、アジア債券ファンド(ABFs)、汎アジア・インデックスファンド等の更なる方策を通じて進化できる。これらは、市場の構造を収斂させ、規制や清算・決算の制度的枠組みを調和させるだろう」と、河合は述べた。

### Media Inquiries Only

Sachiko Sakamaki  
Tel: +81 3 3504 3160  
Email: ssakamaki@adb.org

### Electronic versions of ADB news releases

ADB Online Media Center: [media.adb.org](http://media.adb.org)  
ADB web site: [www.adb.org](http://www.adb.org)